

育苗箱のイネ苗を幅広い病原菌から守る!

TPN
(ダコニール)



ベノミル
(ベンレート)

2成分でしっかり防除

STダコレート® 水和剤

(TPN50.0%、ベノミル20.0%)

殺菌剤分類 M5.1

●育苗箱に発生する稲の苗立枯病は、数多くの病原菌が原因。

●幅広い病原菌に効果のある薬剤で防除することが重要。

ダコレートは(株)エス・ディー・エス バイオテックと住友化学(株)の登録商標

適用と使用法

稲(箱育苗)の他に、もも、アスパラガス、たまねぎ、レタス、キャベツ、はくさいに登録があります。

2019年9月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	総使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 (苗いもち)	400倍	は種時	本剤:1回 TPN:2回以内 ベノミル:2回以内 (種子への処理は1回以内、 床土への混和は1回以内)	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり0.5ℓを灌注
	苗立枯病 (リゾープス菌) (トリコデルマ菌) (フザリウム菌)	400~ 600倍 800~ 1200倍	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	本剤:2回以内 TPN:2回以内 ベノミル:2回以内 (種子への処理は1回以内、 床土への混和は1回以内)	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ)1箱 当たり1ℓを灌注



使用上の注意[抜粋]



- 本剤の所定量に少量の水を加えて糊状にねり、のち所要量の水を加え十分かきまぜて散布液を調製し、調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布してください。
- ボルドー液や石灰硫黄合剤などのアルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- 稲に使用する場合、育苗箱から希釈液が漏出しないように注意してください。
- 稲の緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の糞尿にはかからないようにしてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。

- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

01R9119D192-Z

2019年9月作成(全農教)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCG GROUP

住友化学



動画
チャンネルは
こちら!

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号
お客様相談室 ☎ 0570-058-669
農業支援サイト **イノリ** <https://www.i-nouryoku.com>
住友化学アグロ事業部



水稻の箱育苗期間中に発生する主な病害

病原菌	病 徴	病 徴	発生要因
	<p>苗いもち</p>	<p>①は種後1週間目頃から鞘葉全体が暗灰色ないし褐変する。場合によっては菌糸や分生子の形成がみられる。次いで、不完全葉や第1本葉に灰緑色で周縁褐色の紡錘形ないし不正形の病斑が現れる。②は種後2週間目頃、1.5葉期頃になって苗が突然萎凋(いちょう)するもので、地際部は褐変し、後に苗は枯死する。</p>	<p>●本病は保菌種もみによって発生する。いもち病菌が内穎、外穎や護穎などに侵入あるいは付着している種もみを使用した場合、①の発生病徴となり、玄米や胚などに侵入している種もみを使用した場合は、②のような発生病徴となる。</p>
<p>ポイント ●保菌種もみ由来の「苗いもち」と育苗期に飛散孢子によって発生する苗箱の「葉いもち」とは異なります。ダコレート水和剤は「苗いもち」に有効です。</p>			
	<p>リゾープス属菌 (ダコレート、ダコニールが有効)</p>	<p>緑化開始時に箱全体が白いカビで覆われ、やがて灰白色となる。被害がひどい場合は出芽せず、種もみ層にカビが見られる。苗の生育は悪く、黄緑色に退色し根は短く数も少ない。冠根の先端が異常肥大する。</p>	<p>①出芽時の高温多湿。②極端な厚播き。③緑化開始後10日間位までの低温。④傷もみの使用。⑤保水力の大きな土の使用。⑥土壌の過湿。⑦窒素肥料の多用。⑧汚染度の高い育苗施設・資材の使用。</p>
	<p>フザリウム属菌 (ダコレート、ベンレートが有効)</p>	<p>苗は発育不良で萎凋枯死する。地際部および根は褐変し、根の伸長が悪い。地際部に白いカビが見られ、床土の断面を見ると、もみを中心に白～淡紅色のカビがまん延。菌の種類によってはもみや根が紅色になる。</p>	<p>①緑化開始後、間もないころの低温。②傷もみの使用。③前年度発病土、畑土壌(pH5.5以上)の使用。④育苗期間中の管理不良(乾燥、過湿など)。⑤肥料不足。</p>
	<p>トリコデルマ属菌 (ダコレート、ベンレートが有効)</p>	<p>苗の被害はフザリウム属菌に似ているが、葉の黄化が顕著。根は短く根数も少なく褐変する。地際部やもみのまわりに青緑色のカビのかたまり(胞子塊)が見られる。</p>	<p>①出芽時の温度30℃前後。②保水力が小さくpH4以下の土壌の使用。③前年発病土の使用。④土壌水分の不足。⑤汚染度の高い育苗施設・資材の使用。</p>
	<p>ピシウム属菌</p>	<p>被害はフザリウム属菌に似ているが、地際部の褐変はやや淡く、水浸状を呈し、急激に萎凋枯死する。「坪枯れ」状になることが多い。地際部にカビは認められない。</p>	<p>①緑化以降の低温(硬化中～後期の低温でも)。②傷もみの使用。③前年発病土、野菜畑土壌の使用。④河川、池の水の利用(浸種、灌水)。⑤育苗中の過湿など。</p>
	<p>白絹病菌 (バリダシン液剤5が有効)</p>	<p>下葉は黄化し、淡褐色となり、しおれて枯死する。地際部、もみ、根のまわりに絹糸状の菌糸がからみあっており、やがて白色～栗色の丸い菌核をつくる。</p>	<p>①畑土壌の使用。 ②高温多湿。</p>
	<p>ムコール属菌</p>	<p>被害やカビの出方はリゾープス属菌と酷似。出芽時に白いカビが床土表面をおおい、苗立枯れ、出芽不良、生育不良などとなる。根部の障害よりも地上部に対する影響が大きい。</p>	<p>リゾープス属菌の発生要因とほぼ同様。</p>
	<p>もみ枯細菌病菌</p>	<p>出芽後、苗がわん曲して褐変枯死し、腐敗がひどい。生育が進んだ苗に感染すると、葉鞘は褐変し、つぎに出る新葉は白色～淡褐色になり、引張ると容易にぬける。「坪枯れ」状となる。カビは見られない。</p>	<p>①保菌種もみの使用。 ②出芽～緑化期間の高温多湿。</p>

農薬は正しく使いましょう。